



各地の活動レポート

●コスモスが心の橋をつなぐ

この春、広島県本部（事務局…もみじ銀行）では、会員である広島電鉄（株）の企業内保育園「まめつこ保育園」へコスモス種子をプレゼント。加えて、園児たちに「頑張つて育ててくださいね!」と県本部事務局が編集したビデオメッセージも添えました。



園児が育てたコスモスが見事開花

同園は、これまでの活動が認められ「小さな親切」実行章を受章。8月6日（木）、実行章贈呈に訪れた県本部事務局の皆さんが目にしたのは、今夏の酷暑にも負けずに見事に発芽したコスモス。園児たちの水やりの姿を思い浮かべ、大感激しました。その後、成長したコスモスの苗が、今度は子どもたちのビデオメッセージとともに県本部の元に届けられ、すくすく成長し花を咲かせました。可愛いコスモスが、県本部事務局と園児たちを、素敵な縁でつないでくれました。

●頼もしい中学生のスピーチ

8月18日（火）、愛媛県本部（事務局…伊予銀行）では、充分な感染対策を行った上で総会を開催し、これまでの実行章受章者の中から、特にすばらしい活動をしている方に県本部独自の特別賞「尾山賞」を贈



森田浩治愛媛県代表（左）より「尾山賞」を贈呈

「コロナに負けるな!」
●アマビエの護符
姿を書き写し、人々に配ると疫病などの難を逃れるといわれ、一躍有名となった「アマビエ」。運動本部が主催する工作教室の講師をつとめる有賀忍先生（板絵画家）が、親切運動の厄除けに手作りの護符を送ってくださいました。読者の皆様をおまもりくださいますように!



コロナ終息を願って……

●川柳紹介
かまきり
蟻螂よ 斧振り回し コロナ殺れ
個人会員 栃木県佐野市 湯浅末吉さん



愛犬と共にあいさつ運動



動画はこちら

呈。今年はアトラクションのかわりに、小中学生の受賞者3名がスピーチを行いました。
東日本大震災以降、被災地の中学生との交流活動を続ける伊方町立三崎中学校の生徒会長は、「小さな親切」とは想いをつなげることで、コロナ禍で思うような活動はできないが、前向きに、一つひとつ愛情を込めて活動したい」とスピーチ。子どもたちの頼もしい姿は、会場の参加者に大きな力を与えてくれました。
●愛知県に運動の種をまく
おのせきほう
小野碩鳳さんは、組織のない愛知県に親切運動を広めたいと入会し、80代とは思えない行動力で、「小さな親切」実行章の推薦活動やあいさつ

運動に積極的に取り組んでいます。先日は、PR動画を自主制作しYouTubeで公開。BGMに演歌が流れ、愛犬と共にPRに励む姿には、職員一同元気をもらいました。小野さんの住む地域は、歴史好き

には有名な、かの「桶狭間」。

卓越した企画力と実行力は、織田信長も顔負けです。今後の活動に、期待しています。

●コロナ対策資金へ寄付

奈良県大和高田支部（事務局…南都銀行高田支店）では、今年度の総会を書面で開催したことから、使わなかった会議費等12万円を有効活用してもらいたいと、大和高田市へ寄附。寄附金は、新型コロナウイルス感

策に使われます。

●目標は2,000冊

高校へ書籍寄贈
昨年、本誌の巻頭エッセイ「恒さんが行く!」（夏号・No.515）で紹介し、海外からの留学生を対象に「日本語作文コンクール」を主催する大森和夫・弘子ご夫妻が、これまでの入賞作品の選りすぐりを収録した書籍「ユニークな『日本文化』論」を出版（朝日



新聞出版刊)。日本の文化を見直し、世界に目を向けてもらいたいと、全国の高校に寄贈する活動もされています。寄贈先の学校からは、「グローバルな人材の育成に役立てたい」と喜ばれています。左記に作文を掲載していますので、ぜひお読みください。
【寄附金ご芳名】
(2020年7月〜8月末/敬称略・順不同)

東京都 株式会社榎本興産/広島県 藤原紀男/福島県 有限会社成田屋
/栃木県 湯浅末吉/熊本県 熊本医療ガス株式会社/静岡県 前田冰
冰/千葉県 千葉喜博
【道府県本部新代表就任】
(2020年7月〜9月/敬称略)
群馬県本部代表 井上聰
(群馬銀行 常務取締役)
山陰本部代表 石丸文男
(山陰合同銀行取締役会長)

留学生の作文

身に付けたい!「気くばり」

ネパール オゲン・サンガン(当時:23歳)

わたしは日本人の習慣のなかで、日本人の「気くばりの精神」に感心しています。たとえば、日本の食事のあいさつの仕方に感心します。食前、日本人は手を合わせて「いただきます」と言い、食事がおわったら「ごちそうさまでした」と言います。料理を作ってくれた人だけではなく、お米や野菜を作ってくれた人たちへの感謝、食材に対する感謝の気持ちが込められています。なんとやさしい気くばりなのでしょう。

出かけるときは「いってきます」「行ってらっしゃい」「気をつけてね」、帰ってきたときには「ただいま」「おかえりなさい」とあいさつします。

私は居酒屋でアルバイトをしています。帰るときは「お先に失礼します。おつかれさまでした」と元気よくあいさつします。これは日本人の「気くばり精神」だと思います。

ある日、わたしはアルバイト先で、使った包丁をちゃんと片付けないで、自分が使いやすい場所に置きました。それが原因で包丁が床に落ち、同僚がけがをしてしまいました。私は店長にとっても叱られると思いました。店長はこう言いました。

「日本では思いやりが一番大切だよ。思いやりとは自分のことより、他人のことを考えて気を使うことなんだ。どうすれば、同僚が働きやすいかを考える。お客様には丁寧な言葉と態度で接することも大切。自分よりも、まず相手のことを優先して行動する。それが思いやりだよ」。

店長は「思いやり」の意味を、私に「思いやり」をもって教えてくれたのです。私は、この店長の「気くばり」に感動しました。私はその日から「気くばり」というものを、自分のものにしたと思うようになりました。

しかし、「気くばり」にはマニュアルがありません。気くばりという能力は日本人独特の能力だと思います。気をまわす、気転が利く、気を使うなど、「気」が頭にくる言葉は、気くばりの基本です。

たとえば、父親が「タバコ」といえば、子どもはタバコだけではなく、灰皿とライターも持ってこなければなりません。このような「気くばり」は、外国人にとってはかなりハードルが高い習慣です。

自分よりまず相手のことを考え、「思いやり」を持って行動すること。私の「気くばり」はまだまですが、この日本人の「気くばりの精神」を身に付けていきたいです。

「ユニークな『日本文化』論」(朝日新聞出版)より